

第6号様式（第24条関係）

プロポーザルによる受託候補者選考結果票

以下の業務について、プロポーザルにより選定した受託候補者と契約締結したので、選考結果を公表いたします。

1 対象業務

業務名	デジタルガバメント推進調査業務委託		
委託期間	令和2年12月16日～令和3年9月30日	担当課	情報統計課
契約の相手方	アクセンチュア株式会社 アクセンチュア・イノベーションセンター福島	契約締結日	令和2年12月16日

2 提案等の審査結果

審査日	提案書審査	令和2年11月24日	ヒアリング審査	令和2年11月24日
選考委員名	<ul style="list-style-type: none"> ・西村 憲（公立大学法人会津大学 上級准教授） ・中村 章人（公立大学法人会津大学 上級准教授） ・青木 孝弘（公立大学法人会津大学短期大学部 准教授） ・井島 慎一（会津若松市総務部 副部長） ・斎藤 哲雄（会津若松市健康福祉部 副部長） 			
審査方法	<p>選考委員5名全員出席により、提案者3者からのヒアリング（企画提案内容説明・質疑応答）により提案内容を確認し、審査基準に基づき各委員が個別に評価を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、提案者はオンライン会議によるヒアリング参加とした。</p> <p>選考委員会においては、過半数を超える3名の委員から最高順位を得たA社が受託候補者として選定された。</p> <p>しかし、A社が会津若松市一般委託業務に係るプロポーザル実施要綱第5条第1項に規定する資格要件を満たしていないことが判明したため、次点のアクセンチュア株式会社を受託候補者として決定した。</p>			
選 評	<p>【アクセンチュア株式会社】</p> <p>国の動向や会津若松市の現状を踏まえた適切なソリューションの提案や、利用者目線による調査手法が評価できる。最新の技術を積極的に取り入れるなど事業経験値の高さを感じられる一方で、高齢者などのICTが苦手な方々に対する配慮などの市民目線の弱さを感じられた。</p> <p>【A社】</p> <p>要求水準書の意図を理解し、職員の意識改革や業務の目指すべき姿の構造化、業務フロー図による課題の抽出などの具体的な提案が評価できる。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の対応策として、定点カメラの効果的な活用も評価できる。ただし、業務改革として無駄な部分の廃止に関する提案などが弱いと感じられた。</p> <p>【B社】</p> <p>職員がすべき業務であるか否かに基づく戦略性が評価できた。業務調査の範囲の広さについては、職員に対する業務改革の意識づけに期待が持てる一方で、職員の負担増になる懸念があった。また、提案している独自のソリューションが開発中である点が弱いと感じられた。</p>			

3 審査結果

参加者名	評価点						合計点
	1 業務遂行能力	2 業務の実施方針	3 企画提案内容	4 工程計画	5 コストの考え方	最高点採点者数	
B社	74	44	184	34	34	1名/5名中	370
アクセンチュア(株)	80	42	198	36	32	1名/5名中	388
A社	74	40	194	34	40	3名/5名中	382

※ 各参加者は受付順に記載しています。評価点は、審査項目ごとの選考委員の合計点です。